



## CHAPTER 24

# エンド ユーザ CAPF プロファイル

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存のエンド ユーザに CAPF プロファイルを追加できます。

次のトピックでは、エンド ユーザ CAPF プロファイルを管理するオプションについて説明します。

- 「エンド ユーザ CAPF プロファイルの挿入」 (P.24-1)
- 「エンド ユーザ CAPF プロファイルの削除」 (P.24-2)
- 「エンド ユーザ CAPF プロファイルのエクスポート」 (P.24-3)

## エンド ユーザ CAPF プロファイルの挿入

次の手順を使用して、エンド ユーザの CAPF プロファイルを一括で挿入します。

### 始める前に

エンド ユーザ CAPF プロファイルには、固有の詳細情報を含む Comma-Separated Value (CSV; カンマ区切り値) 形式のデータ ファイルが必要です。

この CSV データ ファイルは、次のいずれかの方法で作成できます。

- BAT スプレッドシートを CSV 形式に変換する。
- エクスポート ユーティリティで、エンド ユーザ CAPF プロファイル データのエクスポート ファイルを作成する。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [ユーザ(Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル(End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入(Insert End User CAPF Profile)] の順に選択します。  
[エンドユーザ CAPF プロファイル設定の挿入(Insert End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名(File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** 挿入するファイルに含まれる情報で既存の CAPF プロファイル設定を上書きするには、[既存の設定の上書き(Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報(Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

- ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてプロファイルを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、CAPF プロファイルを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。



(注) レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT はその CAPF プロファイル レコードを挿入しないことに注意してください。

### 追加情報

「関連項目」(P.24-5) を参照してください。

## エンドユーザ CAPF プロファイルの削除

ここでは、Cisco Unified Communications Manager データベースからエンドユーザ CAPF プロファイルを削除する方法について説明します。

### 始める前に

Cisco Unified Communications Manager の管理ページからエンドユーザ CAPF プロファイルを削除する前に、次の作業を実行する必要があります。

- テキスト ファイルを作成し、削除するエンドユーザ CAPF プロファイルを 1 行に 1 つずつ指定します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してエンドユーザ CAPF プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なエンドユーザ CAPF プロファイル レコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成します。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。カスタム削除ファイルにはヘッダーは不要であり、インスタンス ID またはエンドユーザ ID の値を入力できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルの削除 (Delete End User CAPF Profile)] の順に選択します。
- [エンドユーザ CAPF プロファイル設定の削除 (Delete End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 エンドユーザ CAPF プロファイル、検索条件: エンドユーザ ID/ インスタンス ID が次のカスタムファイル内にある (Delete End User CAPF Profile where End User ID/ Instance ID in custom file)] ドロップダウンリスト ボックスで、エンドユーザ CAPF プロファイルを削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したエンドユーザ CAPF プロファイルが示されます。
- ステップ 4** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、エンドユーザ CAPF プロファイルを削除するジョブを作成します。
- [ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- 

### 追加情報

「関連項目」(P.24-5) を参照してください。

## エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート

BAT を使用してエンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート (Export End User CAPF Profile)] の順に選択します。
- [エクスポートするエンドユーザ CAPF プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List End User CAPF Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: エンドユーザ CAPF プロファイル、検索条件 (Find End User CAPF Profile where)] ドロップダウンリスト ボックスで、次のオプションからクエリーを行うフィールドを選択します。
- [インスタンス ID (Instance Id)]
  - [エンドユーザ ID (End User Id)]

- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
- [ が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [ が次の文字列を含む (contains)]
  - [ が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [ が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [ が空である (is empty)]
  - [ が空ではない (is not empty)]
- ステップ 4** 検索フィールド ボックスに、検索する値（たとえば、特定のインスタンス ID またはエンド ユーザ ID）を入力します。
- ステップ 5** 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#) ～ [ステップ 4](#) を繰り返します。
- ステップ 6** [ 検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから異なる値を選択すると各ページに表示される項目数を変更できます。
- ステップ 7** 表示されるレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。
- データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [ 検索 (Find)] をクリックします。
- 選択したレコードがウィンドウに表示されます。
- ステップ 8** [ 次へ (Next)] をクリックします。
- [ エンドユーザ CAPF プロファイル設定のエクスポート (Export End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [ ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、エクスポートするエンド ユーザ CAPF のファイル名を入力します。
- ステップ 10** [ ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで CAPF ファイルの形式を選択します。
- ステップ 11** [ ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 12** [ 今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてエンド ユーザ CAPF プロファイルを即座にエクスポートするか、[ 後で実行 (Run Later)] をクリックして後でエクスポートします。
- ステップ 13** [ 送信 (Submit)] をクリックして、エンド ユーザ CAPF プロファイルをエクスポートするジョブを作成します。
- [ 一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- フィールドの詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用したエンド ユーザ CAPF プロファイル用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.24-5) を参照してください。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

#### 追加情報

- 「[関連項目](#)」(P.24-5) を参照してください。

# BAT スプレッドシートを使用したエンドユーザ CAPF プロファイル用 CSV データ ファイルの作成

表 24-1 では、エンドユーザ CAPF プロファイルを挿入、削除、またはエクスポートする際に表示されるフィールドについて説明します。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 24-1 BAT でのエンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明

フィールド	説明
[エンドユーザ ID(End User Id)]	エンドユーザのユーザ ID を入力します。
[インスタンス ID(Instance Id)]	1 ~ 128 字の英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) を入力します。インスタンス ID は、証明書操作のためユーザを識別します。
[証明書の操作(Certificate Operation)]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[保留中の操作なし(No Pending Operation)] : 証明書の操作が発生しないときに表示されます。これは、認証操作のデフォルト設定です。</li> <li>[インストール/アップグレード(Install/Upgrade)] : アプリケーションのローカルで有効な証明書を新しくインストールするか、あるいは既存の証明書をアップグレードします。</li> </ul>
[認証モード(Authentication Mode)]	証明書のインストールまたはアップグレード操作の認証モードは [認証ストリング(By Authentication String)] です。これは、ユーザまたは管理者が JTAPI/TSP の初期設定ウィンドウで CAPF 認証文字列を入力したときにだけ、ローカルで有効な証明書がインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングされることを意味します。
[認証文字列(Authentication String)]	4 ~ 10 桁の数値を入力します。
[キーサイズ(Key Size、ビット)]	証明書のキー サイズを入力します。デフォルト設定は 1024 です。その他のオプションには 512 と 2048 があります。
[操作の完了期限(Operation Completes By)]	このフィールドは、すべての証明書操作をサポートし、操作を完了する必要がある期限の日付と時刻を指定します。

## 関連項目

- 「エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入」(P.24-1)
- 「エンドユーザ CAPF プロファイルの削除」(P.24-2)
- 「エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート」(P.24-3)
- 「BAT スプレッドシートを使用したエンドユーザ CAPF プロファイル用 CSV データ ファイルの作成」(P.24-5)

